

軍需省官制外二十四件審査報告

昭和十八年十月三十日

委員長 鈴木副議長

委員 石井顧問官

清水顧問官

奈良顧問官

菅原顧問官

林顧問官

二上顧問官

大島顧問官

窪田顧問官

南(弘)顧問官

松井顧問官

湖顧問官

深井顧問官

真野顧問官

小幡顧問官

竹越顧問官

三土顧問官

伊澤顧問官

池田顧問官

南次郎顧問官

泉二顧問官

平生顧問官

平五



軍需省官制外二十四件審査報告

今回御諮詢ノ軍需省官制外二十四件ニ付本官等全員審査委員タルノ命ヲ承ケ專案ノ頗ル重要ニシテ而モ緊急審査ヲ要スベキモノナルヲ思ヒ十月二十五日ヨリ三十日迄連日委員會ヲ開キ當局大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽キ慎重之ガ審議ヲ遂ゲタリ

内閣總理大臣ノ説明ニ依レバ帝國ハ今次大戰開始以來幾クモナクシテ廣大ナル大東亞ノ地域ヲ占領シ大東亞民族ノ結束ヲ固クスルト共ニ其ノ豊富ナル資源ヲ急速ニ戰鬪資材化シツツ戰略態勢ヲ日々強化シツツアリ此ノ趨勢ノ進ム所遂ニ敵米英ガ如何ナル手段ヲ以テスルモ帝國ヲ壓倒シ得ザルニ至ルコトハ敵ノ戰爭遂行上最モ苦痛トスル所ナルヲ以

テ敵ハ帝國ノ戦争能力ノ斯クノ如キ程度ニ達スルニ先立チ帝國ニ大ナル反撃ヲ加ヘ以テ帝國ノ戦力擴充ヲ阻止シ帝國ヲ壓倒セント企圖シ居レリ而シテ近代戦ノ一大特性ハ航空戦ヲ中心トスル大規模ナル消耗戦タルニ在リテ昨夏以來ノ各方面ニ於ケル戦闘ハ斯ル消耗戦ノ連續ニシテ而モ敵ノ兵力ハ急速ニ増大シツツアリ然ルニ之ニ對應スベキ我方ノ戦力特ニ航空戦力ノ整備ハ未ダ作戦上ノ要求ニ應ズルニ足ラザルガ故ニ最短期間ニ之ヲ飛躍的ニ増強スルヲ必要トシ從テ之ガ爲ニハ從來ノ態勢ヲ改メ一億國民舉テ總員戰闘配置ニ就キ以テ渾身ノ力ヲ盡スコト緊要ナリ政府ニ於テハ從來努メテ平時ノ状態ニ急激ナル變動ヲ與ヘズシテ國政ノ運営ニ當リ來レルガ先般意ヲ決シテ之ニ刷新ヲ加フルコト

トセル所以ノモノ亦實ニ茲ニ存ス政府ノ今回行ハントスル國政運営刷新ノ眼目トスル所ハ統帥ト國務トノ關係ヲ愈々緊密化シテ雄渾活潑ナル戦争指導ノ遂行ヲ圖リ又戦争完遂ノ一翼トシテ機敏潑刺タル對外施策ヲ行フト共ニ之ニ即應シ國內諸般ノ態勢ヲ劃期的ニ強化セントスルモノニシテ國內態勢強化ノ目標トスル所ハ官民ヲ舉ゲテ不屈不撓、軍需生産ノ急速ナル増強特ニ航空戦力ノ躍進的擴充ヲ圖リ之ヲ中心トシテ帝國ノ決勝態勢ヲ徹底的ニ強化セントスルニ在リ而シテ其ノ具體的方策ノ重點トスル所ハ行政運営ノ決戦化、國民動員ノ擴大及國內防衛態勢ノ強化ノ三者ニシテ行政運営ノ決戦化ニ付テハ軍需省、運輸通信省及農商省ノ新設ヲ始トスル行政機構ノ整備其ノ職員ノ縮減、官廳事

務ノ刷新及豫算ノ徹底的單純化ヲ圖リ國民動員ノ擴大ニ付テハ學生等ニ對スル一般徵集猶豫ノ停止及徵集徵用範圍ノ擴大普遍化ヲ行ヒ國內防衛態勢ノ強化ニ付テハ國內防衛行政ノ統一の運營ヲ期スル爲新ニ防空總本部ヲ設置シ帝都及重要都市ニ於ケル人員施設ヲ疎開セントスルモノナリ仍テ政府ハ以上ノ見解ト決意トノ下ニ行政機構ヲ整備強化スルコトヲ必要ナリト認メ茲ニ本案諸件ノ御諮詢ヲ奏請シタルモノナリ次ニ本案各件ノ要旨ヲ説明スレバ左ノ如シ

第一 軍需省官制

現下ノ事態ニ鑑ミ國力ヲ擧ゲテ軍需生産ノ急速ナル增強特ニ航空戦力ノ飛躍的擴充ヲ圖ル爲之ヲ計畫的且統一のニ遂行シ得ル如ク行政

運營ノ態勢ヲ整備強化スルハ極メテ肝要ナリ然ルニ軍需生産ニ關スル現在ノ官廳機構及行政運營方法ヲ見ルニ其ノ間事務ノ錯雜遷延等遺憾ノ點アリテ決戰經濟ノ效率發揮ヲ阻害スルニト尠カラザルモノアリ仍テ此ノ際之ニ徹底的再檢討ヲ加ヘ行政機構及官廳事務ノ簡素化就中監督系統ノ簡易化、重要生産ニ對スル軍官發註ノ統一、行政ノ敏速適正ヲ期シ得ルガ如ク之ヲ整理強化スルノ必要ヲ認メ茲ニ新ニ軍需省ヲ設置シ之ニ從前企畫院、陸海軍省、商工省、厚生省、大藏省及遞信省ニ於テ管掌シタル軍需品又ハ其ノ企業ニ關係アル事務ヲ移管統合セントス即チ本案ノ内容次ノ如シ

(一) 軍需大臣ハ國家總動員ノ基本ニ關スル事務、鑛工業一般、鑛產物

及工業品（所管物資）ノ生産、配給、消費及價格、主要軍需品ノ原
材料及特定軍需品ノ生産管理、發註、調辨ニ關スル事務、民間工場
ノ利用及設備經營ノ指導ノ軍需上必要ナル統制ニ關スル事務、所管
物資又ハ電力ノ生産又ハ配給ヲ目的トスル企業ニ於ケル勤勞管理、
賃金、資金調整及經理統制ニ關スル事務、電氣及發電水力ニ關スル
事務並ニアルコール及石油ノ專賣ニ關スル事務ヲ管理シ國家總動員
ノ基本ニ關スル事務ヲ行フニ付必要アルトキハ關係各廳ニ對シ資料
ノ提出又ハ説明ヲ求ムルコトヲ得ルモノトシ（第一）（二）軍需省ニ航
空兵器總局並ニ總動員、機械、鐵鋼、輕金屬、非鐵金屬、化學、燃
料及電力ノ八局ヲ置キ局中ニ部又ハ部及課ヲ置クコトヲ得シメ特ニ

航空兵器總局ニハ長官官房ノ外總務、第一、第二、第三及第四ノ四
局ヲ置クコトトシ（第二）同總局及總動員局以下各局ノ事務分掌ヲ
定メ（第三條乃至第十一條）（三）軍需省ニ各省官制通則所定ノ職員ノ外勅任ノ
技監、勅任又ハ奏任ノ軍需官、奏任ノ軍務官、理專官、統計官及技
師並ニ判任ノ軍需官補、統計官補及技手ヲ置キ此等ノ諸官並ニ部長、
書記官及屬ノ定員ヲ定メ（第十二條乃至第二十一條）其ノ他軍需大臣ノ奏請ニ
依リ内閣ニ於テ命ズル軍務官、參與及專門委員並ニ軍需官軍需官補
等ヲ以テ補スル職務監督官及職務監督官補ノ事ヲ定メ（第二十二條
四條及第二十六條）（四）特定軍需品ニ關スル軍需上必要ナル事項ニ付テハ航空
兵器總局長官及燃料局長ハ陸海軍大臣ノ指揮監督ヲモ意クルモノト

シ（第二十五條）（五）企畫院官制、商工省官制、燃料局官制及物價局官制

ハ之ヲ廢止スルモノトス（附則 第二項）

第二 企業整備本部官制

現下ノ事態ニ於テ我國ノ經濟總力ハ舉ゲテ之ヲ直接戰力化スルヲ緊要ナリト認メ政府ニ於テハ過般來各種産業部門ニ對シ組織的ナル企業整備ヲ實行シツツアルガ時局ノ進展ニ應ジ今後益々之ヲ促進強化セントスルニ當リ之ニ關ル諸施策ヲ迅速適正ニ實施スル爲其ノ事務ハ一部局ニ於テ之ヲ統轄處理セシムルノ必要アリ又金屬類ノ回收ハ現段階ニ於テハ右ノ企業整備ト密接不可分ノ關係ニ在リ仍テ今回本案ノ勅令ヲ以テ從來ノ金屬回收本部ヲ廢止スルト共ニ企業整備本

部ヲ新設シ以テ各種企業ノ整備ノ統轄ニ關スル事務及金屬類ノ回收ニ關スル事務ヲ一括管掌セシメントスルモノニシテ本案ノ内容ハ（一）

企業整備本部ハ軍需大臣ノ管理ニ屬シ企業整備ノ統轄及金屬類ノ回收ニ關スル事務ヲ掌ルモノトシ（第一條）（二）同本部ニ勅任ノ本部長ノ

外奏任ノ書記官、事務官、回收官、整理官及技師並ニ判任ノ屬、回收官補及技手各若干人ヲ置キ（第二條）其ノ他軍需大臣ノ奏請ニ依リ

內閣ニ於テ命ズル回收官、參與及專門委員ノ專ヲ定メ（第三條乃至第五條）

（三）本部長以下ノ諸官ノ職務ヲ定メ（第六條乃至第十二條）（四）金屬回收本部官制ハ之ヲ廢止スル（附則 第二項）旨ヲ定ムルニ在リ

第三 奏任ノ軍需省部長等ノ特別任用ニ關スル件

前記ノ奏任ノ軍需省ノ部長、軍需官及別案ノ勅令ヲ以テ設置セラ
ル軍需監理官竝ニ企業整備本部回收官ハ其ノ職務ノ性質ニ鑑ミ廣ク
適材ヲ求ムルノ必要アリテ其ノ任用ヲ普通任用ノ資格アル者ノミ
限定スベカラザルガ故ニ本件ヲ以テ之ガ爲ニ特別任用ノ規定ヲ設ケ
右諸官ハ正規ノ資格ナキモ其ノ職務ニ必要ナル學識經驗ヲ有スル者
ノ中ヨリ高等試験委員ノ登衛ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得ルモ
ノトシ又今回ノ行政機構整備ノ爲廢官ト爲ル企業監理官、廢官
物資調整官、奏任ノ商工省工務官、鐵山監督局鐵山官及金屬回收本
部回收官ノ各特別任用規程ヲ廢止スルモノトス

第四 大正二年勅令第二百六十二號任用分限又ハ官等ノ初級級級ノ規

定ヲ適用セサル文官ニ關スル件中改正ノ件

前記ノ如ク奏任ノ軍需省部長、軍需省軍需官及軍需省軍需監理官竝
ニ企業整備本部回收官ハ特別任用規定ノ適用ヲ受クルモノナルガ故
ニ實際上其ノ任用ニ支障ナカラシムル爲ニハ高等官官等俸給令第四
條所定ノ初級官等ニ關スル制限ヲ受ケザルモノト爲スノ必要アリ仍
テ茲ニ本案ヲ以テ本件ノ現行勅令第二條ニ改正ヲ加ヘ初級官等ノ適
用ヲ除外セル諸官中ニ右ノ諸官ヲ加フルト共ニ今回廢官ト爲ル企業
院調査官、神祇院敎務局長、奏任ノ商工省工務官、金屬回收本部回
收官、軍事保護院ノ局長及鐵山監督局鐵山官ヲ之ヨリ削除セントス

第五 各省官制通則中改正ノ件

本件ハ省ノ新設廢止及行政機構ノ整備ニ伴フモノニシテ其ノ主眼ト
スル所ハ(一)各省官制通則ヲ適用スベキ省名中ニ農商、軍需及運輸通
信ヲ加フルト共ニ農林、商工、遞信及鐵道ノ省名ヲ削除シ(第一)
(二)軍需及運輸通信ノ二省ニハ省務ヲ分掌スル爲局ノ外總局ヲ置クコ
トトシ其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定メ(第十)總局ニ長官
官房及局ヲ置キ其ノ分掌事務及局ノ分課ハ其ノ省大臣ノ定ムル所ニ
依ラシメ(第十三)總局ニ總局長官ヲ、總局各局ニ局長ヲ置キ(第
四條第)之ガ身分及職掌ヲ定メ(第十七條ノ二)及第十九條(三)從前局務ヲ分掌
スル爲局中課ヲ置キタルヲ更ニ局中ニ部又ハ部及課ヲ置クコトヲ得
ルモノトシ(第十三)條ノ二)各部ニ勅任又ハ奏任ノ部長或ハ高等官ヲ以テ

充ツル部長ヲ置クコトトシ其ノ職掌ヲ定ムル(第二)十條)ニ在リ

第六 農商省官制

今回政府ニ於テハ時局ノ要請ニ即應スル爲中央地方ヲ通ジテ行政機
構ノ整備強化ヲ圖ルコトト爲リタルニ由リ之ガ一環トシテ食糧ノ自
給態勢ヲ確立スルト共ニ國民生活物資ノ綜合確保ヲ圖リ以テ戰時國
民生活ノ安定ヲ期セントシ現在農林省ニ於テ管掌スル事務ト商工省
ニ於テ管掌スル事務中軍需及交易關係ノモノヲ除キタル事務トヲ調
整綜合シ之ヲ管掌セシムル爲茲ニ本案ヲ以テ新ニ農商省ヲ設置シ之
ニ伴ヒ農林省ヲ廢止スルコトト爲サントス而シテ本案ノ内容ハ(一)農
商大臣ハ農林畜水産物、飲食料品、纖維工業品、主トシテ國民生活

ノ用ニ供スル其ノ他ノ工業品及此等ノ生産ニ必要ナル専用物品ノ生産、配給及消費、物價一般、農山漁家、商一般竝ニ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ管理スルモノトシ（第一條）（二）農商省ニ總務、農政、山林、水産、纖維、生活物資及物價ノ七局ヲ置キ（第三條）（三）總務局ニ於テハ物價統制ニ關スル事項ヲ除キタル從前ノ農林省總務局ノ所掌事務竝ニ商工省總務局及企業局ノ所掌事務ノ一部ヲ、農政、山林及水産ノ各局ニ於テハ從前ノ農林省ノ當該局ノ所掌事務ヲ、纖維局ニ於テハ從前ノ農林省蠶絲局及商工省纖維局ノ所掌事務ヲ、生活物資局ニ於テハ從前ノ農林省食品局ノ所掌事務竝ニ度量衡、計量及一般民需工業品ニ關スル事務等ヲ、物價局ニ於テハ軍需物資ノ價格ニ關ス

ルモノヲ除キタル從前ノ物價局ノ所掌事務及從前ノ農林省總務局ノ掌理セル物價統制ニ關スル事務ヲ夫々掌ルモノトシ（第四條乃至第十條）（三）農商大臣ハ必要ト認ムル地ニ木炭事務所及其ノ出張所ヲ設ケ薪炭需給調節ニ關スル事務ヲ分掌セシメ又中央度量衡檢定所ヲ置キ度量衡器及計量器ノ檢定、比較檢査及試験ニ關スル事務ヲ掌ラシムルモノトシ（第十一條及第十二條）（四）農商省ニ各省官制通則所定ノ職員ノ外奏任ノ事務官、理事官、統計官、小作官及技師竝ニ判任ノ統計官補、小作官補及技手各專任若干人ヲ置クト共ニ書記官及屬ノ專任定員ヲ定メ（第十三條乃至第二十一條）（五）農林省官制ハ之ヲ廢止スルモノトス（附則第二項）

第七 運輸通信省官制

戰時ニ於ケル運輸及通信ノ業務ハ用兵作戰ニ關シテハ勿論生産擴充
特ニ軍需生産、國民生活ノ確保其ノ他重要ナル各般ノ國家活動ニ至
大ノ關係ヲ有スルコトハ言ヲ俟タザル所ニシテ現下ノ苛烈ナル戰局
ニ對應シテ戰力擴充ノ基底タル海陸空ノ綜合輸送能力ヲ急速且徹底
的ニ強化スルト共ニ戰時通信能力ヲ充分ニ發揮セシメンガ爲ニハ行
政機構ニ相當ノ改正ヲ加ヘテ事務ノ連繫統一ヲ計ルノ必要アリ仍テ
此ノ目的ヲ以テ茲ニ運輸通信省及其ノ外局タル通信院ヲ新設シ之ヲ
シテ従前ノ鐵道省所掌事務ノ全部、電氣及發電水力ニ關スル事務ヲ
除キ逡信省中央部局ノ管掌セル事務ノ全部、企畫院ノ管掌セル交通
動員ニ關スル事務、内務省ノ管掌セル港灣ニ關スル事務、商工省ノ

管掌セル鐵道車輛其ノ他陸運ノ機械器具ニ關スル事務及倉庫營業ニ
關スル事務並ニ文部省ノ管掌セル氣象ニ關スル事務ヲ統合管掌セシ
メントス即チ本案運輸通信省官制ノ内容ハ(一)運輸通信大臣ハ陸運(自
動車製造事業ヲ除ク)、水運、港灣、倉庫營業、航空(航空機製造
事業ヲ除ク)及氣象ニ關スル事務並ニ通信院ヲ管理シ(第一)航空
ニ關スル事務ニ關シテハ必要ニ應ジ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ對シ其
ノ管理ニ屬スル人馬、艦船、航空機、器材等ノ使用ヲ請求スルコト
ヲ得ルモノトシ(第三十)九條(二)運輸通信省ニ大臣官房ノ外企畫局、鐵
道總局、海運總局、自動車局、港灣局及航空局ノ二總局及四局ヲ置
キ夫々ノ分掌事務ヲ定メ鐵道總局ニハ長官官房並ニ總務、業務、施

設及資材ノ四局ヲ、海運總局ニハ長官官房並ニ總務、海運、船舶及
船員ノ四局ヲ、航空局ニ監理部及乘員部ヲ置キ自動車局ニハ部又ハ
部及課ヲ置クコトヲ得ルコトトシ（第二條乃至第九條）海運總局ニ横濱出張
所ヲ、航空局ニ航空試驗所ヲ、地方ニ九鐵道局ヲ置キ其ノ他運輸通
信大臣ハ必要ニ應ジテ地方官署等ヲ置クコトヲ得ルコトトシ夫々ノ
管掌事項ヲ定メ（第十二條乃至第十七條）（三）同省ニ各省官制通則所定ノ職員ノ
外勅任ノ鐵道監、航空局監理部長及航空局乘員部長、奏任ノ事務官、
鐵道官、海務官、航空官、調査官、技師及標識技師、判任ノ鐵道官
補、技手及標識技手並ニ判任待遇ノ鐵道手各專任若干人ヲ置クコト
トシ（第十八條、第二十一條、第二十三條乃至
第二十九條、第三十一條乃至第三十四條）書記官及屬ノ專任定員ヲ定

メ（第二十二條
及第三十條）鐵道總局ノ各局長、自動車局長及自動車局ノ各部
長並ニ各鐵道局ノ局長ハ鐵道監（樺太鐵道局ニ在リテハ鐵道官）ノ
中ヨリ之ヲ補スルコトトシ（第十九條及
第二十條）其ノ他運輸通信大臣ノ奏
請ニ依リ内閣ニ於テ命ズル海運總局參與、航空局委員、海運總局專
務官及航空局專務官ノ事ヲ定メ（第十條、第十一
條及第三十五條）海運總局長官ハ特定
ノ事項ニ關シ海軍大臣、航空局長ハ特定ノ事項ニ關シ陸軍大臣及海
軍大臣ノ夫々指揮監督ヲ承クルコトトシ（第三十七條及
第三十八條）（四）遞信省
官制、海務院官制、航空局官制及鐵道省官制ハ之ヲ廢止スル旨（附
第二
項）ヲ定ムルニ在リ

第八 通信院官制

本件ハ前記ノ趣旨ヲ以テ新設セラルベキ通信院ノ組織権限ヲ定ムル
モノニシテ其ノ要旨ハ(一)通信院ハ運輸通信大臣ノ管理ニ屬シ電氣及
發電水力ニ關スル事務ヲ除ク外從前ノ遞信省ノ所掌事務竝ニ貯金局
及簡易保險局ノ所掌事務ヲ併セ掌ルモノトシ(第一)同院ニ總裁
官房竝ニ總務、業務、工務、通信監督及貯金保險ノ五局ヲ置キ夫々
ノ分掌事務ヲ定メ(第二條乃) (三)同院ニ勅任ノ總裁及局長、奏任ノ
書記官、事務官、檢閱官及技師、奏任又ハ判任ノ官吏練習所教官、
判任ノ屬、檢閱官補、技手及屬補竝ニ判任待遇ノ遞信手ヲ置キ總裁
ニハ親任官ノ待遇ヲ賜フコトアルベキモノトシ(第九條及) 第十條
以下常務職員ノ職務権限ヲ定メ(第十一條乃) (四)通信院ニ官吏練習所
至第二十條

及海底線工事事務所ヲ置キ其ノ他總裁ハ所要ノ地ニ電氣通信建設事
務所又ハ貯金保險局ノ支局ヲ置クコトヲ得ルコトトシ夫々ノ所掌事
務等ヲ定メ(第二十一條乃) (五)貯金局官制及簡易保險局官制ハ之ヲ
廢止セントスル(附則)ニ在リ
第二項

第九 海員審判所職員定員及任用令外六勅令中改正ノ件

本件ハ前記ノ運輸通信省調査官ニ付其ノ職任ニ鑑ミ廣ク適材ヲ求ム
ルノ要アルニ由リ特別任用ノ途ヲ開キ且其ノ任用ニ支障ナカラシム
ル爲初級官等ノ制限ヲ撤廢スルノ趣旨ヲ以テ關係規程ヲ整備スルノ
外概ネ前記諸官制ノ改革及別案ノ勅令ニ依ル海運局ノ設置及海務局
ノ廢止ニ伴フ當然ノ措置トシテ海員審判所職員定員及任用令外六勅

令ノ現行規定ニ相當ノ整理ヲ加ヘントスルモノナリ

第十 行政機構整備實施ノ爲ニスル内閣所屬部局及職員官制中改正ノ件

本件ハ行政機構整備實施ノ爲(一)内閣所屬ノ印刷局ヲ大藏省ニ移管セントスルニ由リ従前ノ印刷局ニ關スル條項ヲ削除シ

(二)内閣ノ外局タル統計局ヲ其ノ内局ニ移サントスルニ由リ内閣ノ所屬局中ニ統計局ヲ加フルノ外其ノ所掌事務及所屬職員ニ關スル條項

ヲ設ケ

掌理セル事務ノ一部ヲ内閣官房ニ移管セントスルニ由リ其ノ所掌事務ヲ追加シ

二條ノ二ニ在リ

第十一 行政機構整備實施ノ爲ニスル技術院官制中改正ノ件

本件ハ行政機構整備實施ノ爲従前内閣ノ外局タリシ特許局ヲ廢止シテ之ガ所掌事務ヲ技術院ニ移管スルコトヲ主眼トスルモノニシテ技術院ノ目的事項中ニ發明ノ振興ヲ、所掌事務中ニ發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル事項ヲ加ヘ

置シ

並ニ陳列館ニ關スル事ヲ定メ

第十二 行政機構整備實施ノ爲ニスル外務省官制中改正ノ件

本件ハ外務省ニ於テ行政機構整備實施ノ爲同省内ニ於ケル通商局ヲ

廢止シテ戰時經濟局ヲ新設シ(第四條)同局ニ於テハ從前通商局、政

務局及調査局ニ於テ分掌セル戰時ニ於ケル對外經濟施策及對外經濟

交渉ニ關スル事務ヲ掌ラシムルモノトシ(新第七條)從前通商局ノ掌理

セル旅券ニ關スル事務ヲ大臣官房ニ移管シ(第二條)書記官以下ノ職

員ノ專任定員ヲ減少スルコトヲ定メントスルモノナリ(第十二條、第

十五條乃至舊第十七條及第十八條)

第十三 行政機構整備實施ノ爲ニスル内務省官制中改正ノ件

本件ハ内務省ニ於テ行政機構整備實施ノ爲(一)内務大臣ノ所管事項ニ

付従前企畫院ノ管掌セル國土計畫ニ關スル事務ヲ追加スルト共ニ防空ニ關スル事務ヲ新設ノ防空總本部ニ移管スルニ由リ削除シ(第一條)

(二)同省内ノ防空局ヲ廢止シ及之ニ附隨スル條項ヲ削リ(第四條、舊九條、第十二條ノ三及舊十二條ノ四) (三)國土局ノ所掌事務ニ於テ前記ノ國土計畫ニ關スル事務ヲ加ヘ運輸通信省ヘ移管スル港灣ニ關スル事務ヲ削リ(第七條) (四)書記官以下ノ職員ノ專任定員ヲ増減スルコトヲ定ムルモノナリ(第三條、第十條乃至新第一十一條ノ二及舊十二條)

第十四 行政機構整備實施ノ爲ニスル防空總本部官制制定ノ件

本件ハ現下ノ情勢ニ鑑ミ防空ニ關スル機構ヲ整備強化スルト共ニ國防内防空行政ノ統一的運營ヲ圖ランガ爲新設セントスル防空總本部ノ

組織權限ヲ定ムルモノニシテ其ノ主眼トスル所ハ(一)防空總本部ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ防空ニ關スル事務及防空ニ關スル各廳事務ノ調整統一ニ關スル事務ヲ掌ルモノトシ(第一條) (二)同總本部ニ長官及次長ノ外勅任ノ局長四人、奏任ノ書記官、事務官、理事官及技師並ニ判任ノ屬及技手各若干人ヲ置キ、其ノ他内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ命ズル事務官、參與及専門委員ヲ置クコトトシ長官及次長ハ夫々内務大臣及内務次官ヲ以テ之ニ充ツルコトトシ(第二條、第三條及第五條) (三)同總本部ニ總務、警防、施設及業務ノ四局ヲ置キ其ノ局長ノ中警防局長及施設局長ハ夫々内務省ノ警保局長及國土局長ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトトシ(第四條及第五條) (四)長官以下職員ノ職掌並ニ防

空研究所及防空講習所設置ノ事ヲ定ムル（第三條及第五條）乃至第十五條）ニ在リ

第十五 昭和十五年勅令第七百四十一號神祇院ノ副總裁、教務局長及調査官ノ特別任用ニ關スル件中改正ノ件

本件ハ神祇院ノ機構簡素化ニ伴ヒ教務局長ヲ廢官ト爲スニ由リ之ニ對シ特別任用ヲ許シタル規程中ニ整理ヲ加ヘントスルモノナリ

第十六 行政機構整備實施ノ爲ニスル大藏省官制中改正ノ件

本件ハ行政機構整備實施ノ爲（一）大藏省内ノ營繕管財、資金及監理ノ三局ヲ廢止シ營繕管財局ノ所掌事務ハ之ヲ大臣官房及總務、理財ノ二局ニ分掌セシメ、資金局ノ所掌事務ハ之ヲ理財局ニ移シ監理局ノ所掌事務ハ之ヲ理財及銀行ノ二局ニ分掌セシメ銀行ノ名稱ヲ銀行

保險局ト改メ其ノ他軍需省ノ新設ニ伴ヒ一部ノ事務ヲ之ニ移管スル爲理財局ノ所掌事務ヲ整理シ（第一條ノ二、第二條、第三條、第六條、第八條、第九條、第十一條及第十二條）

（二）同省ノ一部職員ニ付其ノ名稱、所屬又ハ定員ヲ變更シ（第四條、第十六條、第二十條、第二十一條、第二十三條及第二十四條）取引所監督官及取引所監督官補ヲ廢シ（第二十條）（三）隨造試驗所ヲ廢止スルコトヲ定ムル（附則）

モノナリ

第十七 行政機構整備實施ノ爲ニスル印刷局官制制定ノ件

本件ハ別件ニ依リ内閣印刷局ヲ大藏省ニ移管スル爲廢止スルニ伴ヒ新ニ大藏省ノ外局トシテ印刷局ヲ設置スルコトヲ定ムルモノニシテ即チ印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ従前ノ内閣印刷局ノ所掌事務ヲ

掌ルモノトシ(第一條)局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理スルモ官報及法令全書ノ編輯印刷等ノ事務ニ付テハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承クルモノトシ(第三條)其ノ他所屬ノ職員及其ノ職掌ヲ定ムル(第二條乃至第九條)モノナリ

第十八 行政機構整備實施ノ爲ニスル司法省官制中改正ノ件

本件ハ行政機構整備實施ノ爲司法省内ノ行刑、保護ノ二局ヲ統合シテ刑政ノ一局ト爲シ(第四條及舊第六條ノ二)其ノ所掌事務ヲ定メ(第六條)及同省職員ノ定員ヲ若干減少スルコトヲ定ムル(第六條ノ二)モノナリ

第十九 行政機構整備實施ノ爲ニスル文部省官制中改正ノ件

本件ハ行政機構整備實施ノ爲文部省内ノ圖書局ヲ廢シテ其ノ所掌事務ヲ專門教育、國民教育及教學ノ二局ニ分置セシメ教化局ヲ廢シテ其ノ所掌事務ヲ教學局ニ移シ其ノ他總務局、科擧局及體育局ノ所掌事務ニ少許ノ改正ヲ加ヘ(第三條乃至第九條)及同省職員ノ專任定員ヲ若干減少スルコトヲ定ムル(第十條乃至第十一條)モノナリ

第二十 行政機構整備實施ノ爲ニスル厚生省官制中改正ノ件

本件ハ行政機構整備實施ノ爲人口及生活ノ二局ヲ合併シテ健民局ヲ新設シ其ノ所掌事務ヲ整理シ(第三條、第四條及第六條)衛生局及勤勞局ノ所掌事務ニ少許ノ改正ヲ加ヘ(第五條及第七條)及同省職員ノ專任定員ヲ若干減少スルコトヲ定ムル(第十三條、第十四條及第十六條乃至第十八條)モノナリ

第二十一 昭和十四年勅令第四百八十一號軍事保護院ノ職員ノ特別任

用ニ關スル件中改正ノ件

本件ハ別案ニ依リ軍事保護院官制ヲ改正シテ其ノ局制ヲ廢シ局長ヲ廢官トスルニ伴ヒ之ガ任用ニ關スル特別ヲ存置スルノ要ナキニ由リ

標記勅令中ニ當然ノ整理ヲ施サントスルモノナリ

第二十二 行政機構整備實施ノ爲ニスル大東亞省官制中改正ノ件

本件ハ行政機構整備實施ノ爲ニスル一措置トシテ從前商工省ノ管掌セル交易等ニ關スル事務ヲ大東亞省ニ移管スルコトヲ主眼トシ之ガ官制ニ一部ノ改正ヲ施サントスルモノニシテ(一)大東亞大臣ノ所管事務中ニ交易ニ關スル事務及交易ニ伴フ外國爲替ノ管理ニ關スル事務

ヲ加へ(第一條) (二)同省ニ新ニ交易局ヲ設ケ從前ノ商工省交易局ニ於

ケル所掌事務ヲ掌ルモノトシ(第二條及第六條) (三)從前商工省ニ於テ當

該事務ニ關シ設置シタル交易局參與、爲替管理官及爲替管理官補ヲ

大東亞省ニ移シ並ニ交易事務所設置ノ事ヲ本案官制中ニ規定シ(第六條)

條ノ三、第六條ノ四、第十條ノ二及第十四條ノ二、其ノ他同省職員ノ專任定員ヲ若干増減セ

ントスル(第七條乃至第十條、第十一條、第十四條及第十五條)モノナリ

第二十三 行政機構整備臨時職員令

本件ハ行政機構整備ノ諸勅令實施ニ伴ヒ廢官又ハ定員過剩ト爲ル官ニ付爰ニ本院ノ議ヲ經テ制定セラレタル行政簡素化臨時職員令ノ例ニ倣ヒ經過規定ヲ定メントスルモノニシテ(一)今回ノ行政機構整備ノ

勅令ニ因ル廢官ニ係ル官ニ當該勅令施行ノ際現ニ在官スル者ニ付テハ其ノ者ガ引續キ其ノ官ニ在官スル間ハ臨時其ノ官ヲ置カレタルモノトシ此等ノ者ハ特定ノ者ヲ除キ待命トシ(第一條第一項及第二項)(二)今回ノ行政機構整備ノ勅令ニ因リ過員ヲ生ジタル官ニ付テハ其ノ過員ニ該ル員數ヲ限リ當該官ノ定員外ト爲スコトヲ得ベク此等ノ官ニ在職スル者ニ付テハ本團長官ハ必要ニ依リ過員ニ係ル員數ノ範圍内ニ於テ之ニ待命ヲ命ズルコトヲ得ルモノトシ(第二條)(三)待命者ノ服務ニ關スル規定ヲ定メ(第三條及第四條)(四)特ニ必要アルトキハ今回ノ行政機構整備ノ勅令施行ノ際ニ限リ當該勅令ニ定ムル定員ニ拘ラズ一ノ當該關係應ヨリ他ノ當該關係應ニ其ノ職員ヲ轉任セシムルコトヲ得ルコ

トトシ(第七條第一項及第二項)(五)本令ノ適用又ハ進用上必要ナル事項ヲ定メ(第一條第三項、第五條、第六條、第七條第三項及第八條)(六)本令ハ昭和十九年三月三十一日迄其ノ效力ヲ有スルモノトスル(附則)モノナリ

第二十四 戰時行政職權特例中改正ノ件

本件ハ戰局ノ推移、内外ノ情勢茲ニ愈々重大化シ今ヤ急速ニ國內諸態勢ノ戰時切替ヲ斷行スルノ必要アルニ鑑ミ之ガ一措置トシテ曩ニ本院ノ議ヲ經テ制定セラレタル戰時行政職權特例中ニ改正ヲ加ヘ之ヲ擴充強化シテ行政ノ決戰態勢化ヲ圖ラントスルモノニシテ其ノ要旨ハ(一)現制ニ依レバ内閣總理大臣ガ關係各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得ルハ重要軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキ

ニ限ラレタルヲ改メ此ノ外更ニ主要食糧ノ確保、防空ノ徹底強化
其ノ他綜合國力ノ擴充運用上特ニ必要アルトキヲ加ヘ（第一）（二）現

制ニ依レバ重要軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキハ勞務、資
材、動力及資金ニ關スル行政職權ノ移動ヲ爲シ得ルコトト爲セルヲ
改メ職權移動ヲ爲シ得ル場合トシテ主要食糧ノ増産上特ニ必要アル
トキヲ加ヘ且移動ヲ爲シ得ル職權ノ範圍トシテ食糧、施設及運輸ニ
關スル職權ヲ加フルコトトスル（第二條及第三條）ニ在リ

第二十五 高等試験ノ停止ニ關スル件

本件ハ國內態勢強化ノ一策タル國民動員ノ徹底ヲ圖ランガ爲學生ニ
對スル一般徵集猶豫ノ停止セラルルニ伴ヒ法文科系統ノ學生ハ概ネ

軍務ニ服スルヲ豫想セラルルニ至リ高等試験ハ之ヲ行ハザルヲ可ト
スル事情アルニ因リ本件ノ措置ヲ執ラントスルモノニシテ即チ（一）高
等試験ハ昭和十九年ニ於テハ之ヲ行ハザルコトトシ（第一）（二）昭和
十八年ニ於テ一ノ科ノ筆記試験ニ合格シタル者及大東亞戰爭ノ爲召
集セラレ昭和十八年ニ於テ其ノ召集ヲ解除セラレタル者ノ高等試験
ノ受験ニ關シ特例ヲ設ケ（第二條及第三條）併シテ關係規程ノ整備ヲ圖
ラントスル（附）モノナリ

按ズルニ本案ノ諸件ハ大東亞戰爭ノ現段階ニ即應シ國政ノ運営ヲ刷新
シ國內諸般ノ態勢ヲ強化セントシ省ノ新設廢止其ノ他行政機構ヲ整備
シ職員ノ縮減ヲ圖ル等ノ爲必要ナル官規ヲ制定改廢スルコトヲ主眼ト

スルモノニシテ其ノ趣旨ニ於テ敢テ不可ナキモ各案ノ構想及内容ニ至
リテハ是非スルノ餘地尠カラザルモノアリ然レドモ之ヲ現下ノ戦局ト
内外ノ政情トニ照シ姑ク之ヲ容認スルノ外ナキモノトス仍テ審査委員
會ニ於テハ本案ノ二十五件ハ孰レモ此ノ儘可決セラレ然ルベキ旨全會
一致ヲ以テ議決シタリ
右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十八年十月三十日

審査委員長

樞密院副議長 男爵 鈴木 貫太郎

審査委員

樞密顧問官 子爵 石井 菊次郎

樞密顧問官 有馬 良橋 (病氣闕席ノ爲
決議ニ與ラズ)

樞密顧問官 窪田 静太郎

樞密顧問官 清水 澄

樞密顧問官 南 弘

樞密顧問官 男爵 奈良 武次

樞密顧問官 男爵 松井 慶四郎

樞密顧問官 菅原 通敬

樞密顧問官 松浦 鎮次郎 (病氣闕席ノ爲
決議ニ與ラズ)

樞密顧問官 潮 惠之輔

樞密顧問官 林 頼三郎

樞密顧問官 深井 英五

樞密顧問官 二上 兵治

樞密顧問官 眞野 文二

樞密顧問官 大島 健一

樞密顧問官 小幡 西吉

樞密顧問官 竹越 與三郎

樞密顧問官 三土 忠造

樞密顧問官 伊澤 多喜男

樞密顧問官 池田 成彬

樞密顧問官 南 次郎

樞密顧問官 泉 新熊

樞密顧問官 平生 欽三郎

樞密院議長 原 嘉道 殿

昭和十八年十一月六日立案

主筆

書記官



書記官長



書記官



奏任文官特別任用令中改正ノ件審査
報告

(別紙ノ通り)